

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700446		
法人名	有限会社 真殿製材所		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岡山県美作市北山1414		
自己評価作成日	平成28年6月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成 28 年 8 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは家庭的な雰囲気作りの一つとして介護職員が交代性により食事の提供を行っている、食材の購入も近所のスーパーへ買出しに行ったり、ファックスにて注文している、食材や日用品の購入に入所者も一緒にでかけることもあり、地域交流や外出の場を提供している。また有限会社が運営する単独施設であることから環境、設備面において迅速な対応が行え、近隣の介護サービス提供施設との交流もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の利点を活かした段差解消工事や土砂災害の予防壁工事など、安全への環境整備が迅速に行なわれています。また、暮らしの面では入居者が食べたい物をメニューに取り入れながら季節の野菜を使った家庭的な食事を基本スタンスとしています。職員研修にも力を入れ、スキルアップに努め、入居者を傷つけない様に優しくゆったり、理念に沿った支援をしている様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議にて職員の意見を出してもらい職員間の意識の共有を図っている。	「地域との関わりを持ったゆったりとした暮らし・・・」を理念として職員間で意識を共有し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域へ買い物や散歩に出かけている、また地域の納涼祭や運動会に参加している。	経営母体が地域に密着した事業なので、地域密着という部分を大切に、地域の行事に参加したり、ご近所の方々が野菜の差し入れをするなど気軽に関われる関係づくりが構築されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の社会福祉協議会主催のボランティア体験事業の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに年6回実施している。ホームの運営の様子入退所、待機状況などを報告している。また、会議に参加した家族からの要望により「おたより」の発行を開始している。	運営推進会議には区長・老人会・婦人会・市職員・家族等が参加し、地域のハザードマップや行事などを紹介してくれます。また事業所側から車いすやベッドの移乗講習をしたり、とろみ材の試食会など相乗効果のある会議に努めています。	現状報告のみに終わることなく、これからも地域の理解と支援を得る為の貴重な機会として捉え、運営推進会議を活かしたサービスの向上に取り組みされる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課の職員が運営推進会議へ参加してくださっている。また包括支援センターなどより必要に応じて相談や連絡を行っている。	行政の担当者が変わっても、訊ねれば調べて必ず教えてくれます。また、事業所だけでは難しい事例の相談などしながら、協働関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろのケアを職員間で振り返ることにより身体拘束の予防に努めている。	段差などは経営母体の利点を活かして迅速に解決し、安全かつ身体拘束のないよう努めています。また、言葉の拘束に関しては職員間で注意し合う様取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修会への参加と日ごろのケアの振り返り、また職員間で注意しあえる関係作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者には後見人制度を利用しており日々の生活記録を確認してもらっている。また随時講習会や研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に家族へ説明している、また不明な点や内容の変更点は随時説明するとともに不安や質問に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を記載し入居時に説明している、また日ごろから意見、要望があれば受け付けている。	家族から「お便り」の発行希望があったので、今年の4月から発行しています。その他入居者や家族の意見・要望を事業所に表せる様、相互関係を深めサービスの質の向上に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例で行っている職員会議にて意見を聞いている、また必要に応じて会議にて職員間で検討している。	管理者も職員も意見が出しやすく、お互い話し合う事で出来る事出来ない事を納得し、話しあえる関係づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の業務内容や悩みなどへの把握に努め評価している。また資格取得にも積極的に支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加へ積極的に支援している、また現場において学んだことを共有できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との職員交流の機会を作らせて下さっているまた、合同の行事への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面接時に本人の生活歴、現在の様子を確認している、また入居当初においては職員が日課等の説明を行ったり本人の訴えを聴くようにしている。食事の席なども他の入居者との関係について配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居についての相談時に入居後の生活についての要望を聴くようにしている、毎月送付する請求書に日ごろの様子などお知らせする手紙を同封している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に今まで対応してきた事例などを具体的に説明しサービスの利用の継続または他のサービスへの移行についての可能性を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の料理など入居者に話をしたり、家事など共同作業をしながら関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの衣類の入れ替えなど家族にして欲しいことをお願いし負担のない範囲で関わってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲で馴染みのお店の利用や知人の面会などに行っている。	入居者の馴染みの場が広域になっているが、一人ひとりの場所に可能な限り出向くことを実践しています。また、馴染みのものや場所など把握して会話に盛り込むように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係を観察しており食事の席の配置などを配慮している。また職員が中に入りコミュニケーションをとることにより関係づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要時応じては次の施設への入居の相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションにより本人の生活歴や思いを聴きだせるよう努めている。困難な場合は家族から情報を頂いたり職員間で気づきを集めて共有している。	過ごし方を言葉で表現できない入居者は、日々の介護の中で思いを拾い集め、嫌がる事を消去していくことで本人本位の思いに近づけるよう工夫をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供と入居後、本人や家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日課を基本に生活記録や職員の申し送りなどから変化を把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろから家族へホームでの様子を伝えるようにしている、職員会議の中でケアの様子、課題等を話し合い介護計画に反映するようにしている。	今まで、家族会(年2回)では食事会や介護衣服の確認に留まっていたが、今年は面談形式も取り入れ、家族の思いや意見を聞き、職員からも要望を出しアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行って介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中でケアの実践・結果も記録するようにしている、また気づきや工夫は日々の申し送りにて共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎週末家族の都合に合わせて自宅に帰るなど入居前の在宅生活に近い状態での利用を希望される家族に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時に利用していた理容店が出張散髪に来て下さって利用を継続できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の説明にて在宅時の主治医の継続と囑託医への主治医の変更を選べるようにしている。定期の往診があり、必要に応じての受診については家族と連絡をとりながら対応している。	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関・医師を把握し、家族との協力体制のもと適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師の配置はないが週に一度近隣の訪問看護ステーション来所し健康チェックと相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族だけでなく病院に入院中の経過を確認したり訪問して様子をみたりしている。また退院時のADLの目標なども病院と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を確認しているが状況に応じて家族と話し合いも行っている。	本人・家族・職員の意識統一と医療スタッフとの連携による体制の整備など又、他の入居者への影響も踏まえた、終末期の支援のあり方を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の災害マップを運営推進会議や職員会議にて確認、新人職員には火災通報装置の操作説明も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機と火災通報装置を連動する工事を行っている、防災訓練では防災設備の取り扱い説明を職員に実施。水害対策としてホーム北側にコンクリートの壁を作っている。	火災・防災に対し検討し、職員一人ひとりが避難経路・初期行動を身に付け、ハード面でも前向きに善処策を講じている様子が窺えます。	今後も天災害を含め、全職員で入居者が安全に避難できる方法を身に付け、運営推進会議を通じて地域・家族・消防署などと連携して協力体制を築いていかれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴、性格に合わせて声かけを行うようにしている。そのために家族から伺った若い頃のエピソードは職員間で共有するようにしている。	対人関係を基本に「親しき中にも礼儀あり」を心掛け、入居者のその人らしい尊厳ある姿を大切にして目立たず・さりげない言葉掛けや対応に配慮している様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定できる方には入浴後の着替えを一緒に選んだり、誕生日等には好きな食べ物を聞いたりしている。日常的には好きな歌を聴いたり外で日光浴をしたい時には日光浴を実施したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、ゆっくり起きたい時等は時間を遅らせたり、入浴の順番も基本的には決まっているが本人の希望により変更することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着なれた衣類等の身だしなみができるよう援助している、また職員が衣類の購入等を行う場合、可能な方は一緒にかけて衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備でできることは手伝ってもらっている、家族が持ってきてくれた野菜なども「これ、持ってきてもらった物でえ」と声をかけて楽しんでもらっている。	野菜造りをしている入居者もいて、その季節の物を使った食事を職員と一緒に楽しんでいます。また、食後、後片付けの皿を拭きながら会話を楽しんでいる様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせて小盛りや大盛りを設定している、体調不良などで食事が摂りにくい場合には栄養補助食品にて補食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施、週に一度はポリ Dentなどで義歯の洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の経験からトイレの介助のタイミングなどを変更をしている。排泄動作は自立しているが場所が分からない方には随時誘導を行っている。	本人の意向や体調に配慮しながら習慣(トイレではなく便所という言い方等)やパターンを把握し、声掛け・誘導しながら安眠・快適さを優先し支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけでなく、食物繊維の多い食材を使用したり牛乳やヤクルトを摂取してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の順番はあるが本人に入浴の希望を確認しながら変更する場合もある、限られた時間内ではあるが時間を前後することもある。	庭にある柚子を入れてゆず湯にしたり、季節ごとの湯を楽しめるようにしています。また、シャワーが嫌いだったり、温めの湯を好むとかそれぞれの好みを試行錯誤しながら探り、気持ちよく入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて休息の時間を設けている、天気の良い日には布団を干したりシーツ交換を行っている、外の光が気になる方は遮光カーテンに変更している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし職員がいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、テーブル拭きなどできることをしてもらっている、最近はお餅作り野菜作りにも参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域や地区内の他事業所の行事などは家族にも案内を出し、可能な方には家族の付き添いをお願いしている。一度に大勢の人数の外出ができないので少人数ずつ散歩や買い物に出かけている。	天候や体調を考慮して、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会としての外出支援を心掛けています。また、家族独自で散髪に連れて出るケースもあり、家族の協力を得ながら支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の所持は行っていないがお金を持つことで安心できる方には家族と相談し少量のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	業務の時間によって不可能なこともあるが家族からの制限がなければ支援できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけなどを行っている。	ホールには天窓があり、非常に室内が明るい。また、干支の貼り紙をしたり、季節の花をちぎり絵で作り飾っています。温度管理に気を配り、居心地よく過ごせる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外のテーブルやベンチ等の設置により、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し馴染みの物や使いやすいものを用意してもらっている。配置については生活動作をみながら変更するようにしている。	自宅での部屋とトイレの位置関係を把握できた場合は同じにしたり、ホールに近い部屋が丸見えにならないよう暖簾をして工夫するなど、本人が違和感なく居心地よく過ごせる様に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の動作に合わせてテーブルの配置や席の場所を決めていおり必要に応じて変更している。		